

令和 7 年度

運営に関する計画

立 案



大阪市立加美東小学校

大阪市立 加美東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、数年前における極度の学力不振や荒れに伴う学級崩壊といった状況を、教職員一丸となって子どもたちの指導に当たり克服してきた。現在においては、学校の方針や対応姿勢を地域・保護者に理解いただきながら穏やかな学校運営がなされている。また、学校の研究方針を策定するにあたり、教科にとらわれるのではなく、広く子どもたちを学びに向かわせたいとの理念のもとに「知的好奇心を高める授業の探求」を研究テーマに定め、子どもたちの達成感や充実感を高める取り組みを推進してきた。結果として、全国学力学習状況調査において、国語と算数は全国平均同水準となっている。小学校学力経年調査では、どの学年も大阪市平均を超える数値を上げることができた。今後も本校の良き文化を伝承し、地域・保護者とも手を携え、「キラリと光る学校」を目指していきたい。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

学校アンケートの「安全で安心できる学校」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校アンケートの「知的好奇心を高める授業や取り組みをすすめ、多様化する社会を生き抜く力を育成する」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校アンケートの「教育環境の充実」にかかわるすべての項目において、肯定的回答の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を男女とも71.1%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。]
- ・ゆとりの日の設定を月 2 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。
- ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100%にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立加美東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
取組内容①【 基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現 】互いを認め合い、より良い集団を目指す子どもを育てる。 ・いじめや不登校、問題行動、児童虐待に関して、保護者と地域、関係諸機関と連携し、未然防止及び早期発見に努める。発生事案については、個に応じた対応・解決へ向けて組織的に行う。児童理解の場を通じて教職員間で情報を共有し、指導の方向性を一致させて行う。	
指標 ・アンケート調査で把握したいじめ事案について、聞き取りを行い相手との話し合いの中で指導を行い問題解決した割合を100%にする。 ・学校アンケート〔児童用〕「学校が楽しい」、〔保護者用〕「子どもは楽しく学校生活を送っている」の項目について、肯定的な回答割合を前年度（93.7%・96.5%）同等程度にする。	
取組内容②【 基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現 】安全環境の実現 ・安全で安心して活動できるよう、施設の整備とともに、行事の精選や学校のルールを改善する。	
指標 ・学校アンケート〔保護者〕「学校は子どもの安全確保に努めている」の項目で、肯定的な回答割合を前年度（94.6%）同等程度にする。 ・学校管理下における災害の発生件数（休み時間の運動場での怪我）を、昨年度（4件）より減少させる。	
取組内容③【 基本的な方向2、豊かな心の育成 】人権教育の推進とキャリア教育の充実を図り、自己肯定感・自己有用感のある子どもを育てる。 ・人権教育の校内研修を年1回以上実施し、校外研修に年2回以上参加し、人権教育に基づき学級活動中心に集団育成を行い、一人ひとりが居場所のある学級をつくる。	
指標	

<p>・学校アンケート（児童）１～４年生「将来の夢や目標をもっていますか」５・６年生「将来、どんな大人になりたいか考えることがありますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で、年度初めと年度末を比較し、肯定的な回答割合を増加させる。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立加美東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を男女とも71.1%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】知的好奇心を高める授業や取り組みをすすめるとともに、基礎・基本的な内容の定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や研修等を計画的に実施し、教員の指導力を向上させる。また、授業づくりの工夫を図り、児童の表現力を向上させる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年調査における算数科の平均正答率を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・学校アンケートの「自分の考えを表現することができていますか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。 ・学校アンケートの「本を見たり、読んだりすることが好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より向上させる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】グループ活動を積極的に取り入れた体育科の授業展開を工夫し、友だちと一緒に活動する楽しさを味わわせ、運動に対する意欲を高める。自分の身体や健康に対する意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での体育や休み時間、全校児童参加のかけあし週間やなわとび週間の中で、運動に対する意欲を向上させる。 ・学期に1回健康チェック週間を設定し、健康に対しての意識を向上させる。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「体を動かすこと（遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目で、肯定的な回答の割合を90%以上にする。 ・健康チェック週間におけるアンケートの「昨日の夜は、早く寝ましたか」「今日は、早起きができましたか」「はんかち、ティッシュを持って来ていますか」「よい姿勢を心がけましたか」の項目で、肯定的な回答の割合を前年度より増加させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立加美東小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。[ただし、事務局定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く。] ・ゆとりの日の設定を月 2 回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 3 日以上設定する。 ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 100% にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)】 日常的に子どもたちが ICT を主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高めるとともに、子どもたちの表現力や学びに対する主体性の向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 人 1 台端末の環境を活かし、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「学習でタブレット端末を進んで使うことができている」や「知りたいことをインターネットで調べることができますか」(3～6 年)などの ICT 機器の活用に関するすべての項目で、肯定的な回答の割合を 80% 以上にする。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日(会議なし、18 時までに退勤)を月 2 回以上設定する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間が月 45 時間以上の教員の割合を 20% 以下にする。 ・教員の一人当たり平均時間外勤務時間を前年度より縮減する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	